学校だより

一人一人が主人公

令和７年１１月１７日
豊岡市立但東中学校
１１月号

【 学校教育目標 ： ふるさとの未来を創る　自分をつくる　但東の子 】

体育祭「才華爛発!」

～一人一人が熱く輝こう～

今年の体育祭は、生徒会で作成した体育祭スローガン「才華爛発（さいからんぱつ　※素晴らしい才能があふれ出ている様）～ 一人一人が熱く輝こう ～」にもあるように、子どもたち一人一人が、個性や才能を十分に発揮して活躍できることを念頭に準備してまいりました。また子どもたちの熱中症防止の観点から、本年度は文化祭の日程と入れ替えての実施といたしましたが、天候不順のため２回の延期を余儀なくされ、１１月４日（火）の平日開催となりました。

予定変更に伴い、保護者の皆様には何かとご迷惑をおかけすることがあったと思いますが、おかげさまで体育祭当日は秋らしい穏やかな晴天となり、運動するには申し分のない条件で体育祭を実施することができました。熱中症の心配は全くする必要がなく、運動している子どもたちにとっては快適な気候でしたが、体育祭の前日には関東で「木枯らし１号」が吹いておりましたので、準備したテントの日陰でご観覧いただいた保護者や地域の皆様にとっては、少し肌寒さを感じられたのではないかと危惧しております。また来年度に向けて日程調整等、改善していく必要があるかもしれません。

体育祭のプログラムについては、子どもたちの意見をまとめ、昨年の紅白対抗形式から本年度は学年対抗形式へと戻しました。また実施プログラムについても、定番の「ラジオ体操」、「学年対抗リレー」や「二人三脚」、「Hey! Say! JUMP!（大縄跳び）」、「いつ引くの？ 今でしょ!（綱引き）」に加えて、子どもたちの意見を参考にして新たに「ハロウィンアスレチック（ハードル、ネットくぐり、跳び箱、玉入れの混合種目）」を実施しました。学年ごとに趣向を凝らしての「学年演技（創作ダンス）」も行いました。

誰もが主人公になるということ

体育祭を通じて私が何よりうれしく感じたのは、子どもたちが競技を通して互いに「楽しみ喜ぶ」姿勢でした。体育祭には競技があり、文字通り子どもたちは体育祭の競技を通して「競う」ことになります。しかし体育祭にとって勝敗を競うということはあくまで手段であって、その意義（目的）はもっと別のところにあると、子どもたちはちゃんと理解しているのです。

体育祭は全員参加の学校行事です。子どもには参加する競技を選択することはできても、体育祭自体に参加するかしないかという選択肢は基本ありません。運動が苦手な子どもにとって、これは大きな問題となる場合があります。人前で運動をするだけでも苦痛に感じることもありますし、ましてや団体競技の勝敗の連帯責任を負わされては、それこそ立つ瀬がなくなるからです。近年、体育祭の競技で順位をつけない学校が少なからずあるのは、このような背景も一因にあるかもしれません。

もちろん、単に競技の順位づけの有無を非難しているわけではありません。本校でも創作ダンスや学級旗の順位づけは行っていませんし、文化祭においても意見発表や合唱の順位づけは行っていません。これらは競うことによる勝敗ではなく、自らの表現活動そのものを楽しみ、他者の表現活動を鑑賞して楽しむということを目的としているからです。

とすれば、体育祭の競技は全て競わず、リレーは「走る」、綱引きは「引く」、大縄跳びは「跳ぶ」といった、自らの運動そのものを楽しむだけでよい、という考えも成り立ちます。確かにそうですが、しかしこれらの運動は他者と「競う」という要素（手段）によって、より速く走る、より強く引く、よりたくさん跳ぶことができるようになる一面があるのです。つまり競うことの本当の意義（目的）は目先の勝敗ではなく、他者との競争を通して自分自身の限界に挑戦し、その成長を楽しみ喜ぶこと。そして同時に、自分だけでなく他者の成長をも楽しみ喜ぶことだと思うのです。

子どもたちが自らの成長を喜ぶ姿。そして他者の成長を心から称え友人を応援する姿。そこには自分だけでなく他者をも尊び、共に活動することができる主人公としての姿があります。体育祭は全ての子どもたちが主人公になる場です。そしてこれは特別なことではなく、日々の学校生活でも同じことだと私は思うのです。